

【船橋市】1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

生成 AI の登場からもわかる通り急速な技術進歩により、我々の生活や仕事、教育のあり方も大きく変化している。これにより、情報教育がますます重要となり、児童・生徒が将来に備えるために必要なスキルを身につけることが求められている。

そのため、児童生徒の1人1台端末および、各校に整備されている電子黒板を始めとした ICT 機器を用いて、従来のように教師が知識や解決策を提示するのではなく、児童生徒が自ら問いを見出し、解決策を考え、時には個別に、時には協働的に作業を行いながら、問題を解決する力を身につけさせていきたい。これは、子供たち一人一人が持続可能な社会の担い手として、社会の変化に受け身に対応するだけでなく、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、社会や人生をより良いものにしていくために自ら考え、可能性を発揮する「生きる力」を身につけることに重点をおいた、本市の教育目標「自立して、主体的に社会に関わることができる子供を育成する」（船橋の教育 2020-船橋市教育振興基本計画-）に関連するものでもある。

また、授業のオンライン配信や、クラウドサービスを利用した学習など、ICT だからこそできる学び方について、行政及び学校だけでなく、保護者、児童生徒そして地域の理解を深め、誰一人取り残さないための学習環境を整えていきたい。

それらの機器活用と並行して、AI 技術の発達など、加速度的に進む情報社会に適應できるよう、情報活用能力の育成を図り、これからを担う人材のための教育環境を整えていきたい。

2. GIGA 第1期の総括

GIGA スクール構想がスタートし、令和2年度末に1人1台端末を整備した。また、各学校から直接インターネットにつなぐことができるよう高速大容量の通信ネットワークの整備や、普通教室への電子黒板等の ICT 機器の整備を行った。

ICT 機器の整備後は、機器のトラブル等があったときの問い合わせ先として、GIGA スクール運営支援センター（ヘルプデスク）の設置を行っている。また、4校あたり1人の ICT 支援員を導入したことで、端末を授業で活用するときの補助等を行うなど、教職員をサポートする体制も整えた。

1人1台端末を「まずは使ってみる」というところから、段階的に活用が進むように、教職員向けの研修を計画的に行った。それにより、1人1台端末の活用が進んだ学校もあったが、思い通りに進まない学校もあった。また、教職員の「教えるための活用」に偏ってしまい、個別最適な学びや協働的な学びの実現といった、児童生徒のための活用になっていない状況も見受けられる。

GIGA 第2期に向け、教育委員会内の組織の見直しを行い、これまで総合教育セ

ンターが担っていた業務を、指導課、教育総務課、総合教育センターの3課に分担した。指導課では学校への指導・助言、教育総務課では今後の計画、総合教育センターでは機器の整備・運用と業務が明確化されたことにより、学校現場に対して関わる機会をより増やすことができた。これにより、端末の活用及び授業改善を積極的に求め、児童生徒の情報活用能力の育成を図りつつ、令和の日本型学校教育で目指す学びの姿の実現に向け注力していきたい。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGA 第2期の端末の更新により、GIGA 第1期で整備した ICT 環境を引き続き維持していく。1人1台端末の授業での活用に関しては、指導主事を中心に教職員側の意識変化につながるよう指導・助言を行い、児童生徒が端末を学習ツールとして適切かつ安全に利用できるように、授業改善の推進を行う。

現在、課題となっている学校や教職員間による使用感の格差については、研修等を充実させ、行政、現場が一体となって改善を目指し、個別最適な学び、協働的な学びに向かうように働きかけていく。

また、希望する不登校児童生徒への授業のオンライン配信や、日本語指導等を含め、特別な支援を必要としている児童生徒に対し、端末を効果的に活用することで、児童生徒一人一人の学びの機会を保障するとともに、誰一人取り残さない学びを目指す。

これらを実行に移すため、4校あたり1人の ICT 支援員の配置、GIGA スクールサポートによる専用のヘルプデスクの設置など、教職員の運用をサポートする体制を引き続き維持し、端末更新の際には、現在の環境の維持が最低ラインとなるよう計画を立てて実行していくこととする。